

内声のアレンジ

四声体からみた内声の役割

内声によってコードトーンを補完する

Diagram illustrating the role of the inner voice (内声) in completing chord tones. The left side shows a piano accompaniment for three chords: C, G⁷, and C. The treble clef staff has a single note (C4) for each chord, and the bass clef staff has two notes (F2 and C3 for C, B2 and G2 for G⁷, and F2 and C3 for C).

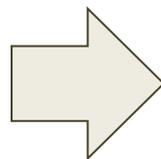


Diagram illustrating the role of the inner voice (内声) in completing chord tones. The right side shows the same piano accompaniment as the left side, but with the inner voice (inner voice) added to complete the chord tones. The treble clef staff now has two notes (C4 and E4 for C, C4 and F#4 for G⁷, and C4 and E4 for C), and the bass clef staff has two notes (F2 and C3 for C, B2 and G2 for G⁷, and F2 and C3 for C).

より自然な内声のライン取り

例) 和声学的に正しい内声(後続和音の最も近い構成音へ連結)

Musical score for piano accompaniment showing chord progression F, G7, C. The inner voice lines are connected naturally between chords.

×ソプラノの動きに対応できていない

Musical score for piano accompaniment showing chord progression F, G7, C. The soprano line is not aligned with the inner voice lines.

○ハモることによってソプラノの動きに対応

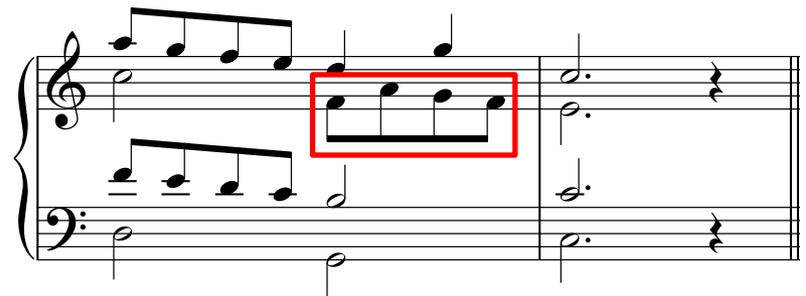
Musical score for piano accompaniment showing chord progression F, G7, C. The soprano line is aligned with the inner voice lines by harmonizing.

より旋律的な内声アレンジ

あくまでソプラノのハモりに徹した内声

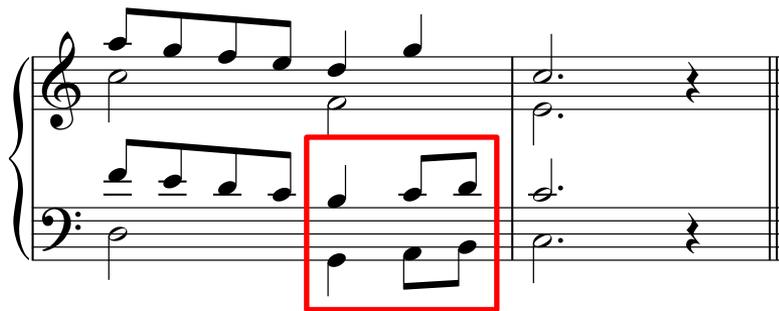


ソプラノとは異なる運動を持つ内声

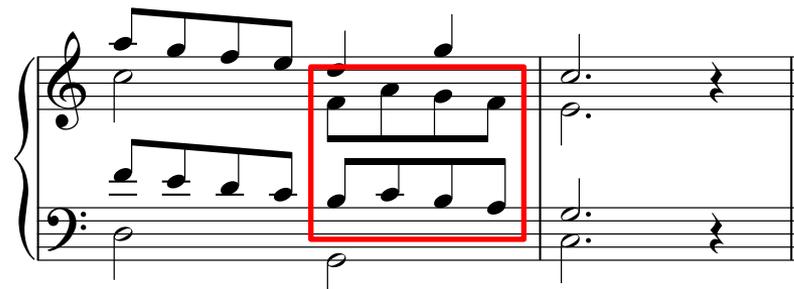


バスとのハモリ、内声同士のハモリ

例①: 内声をバスにハモらせた例

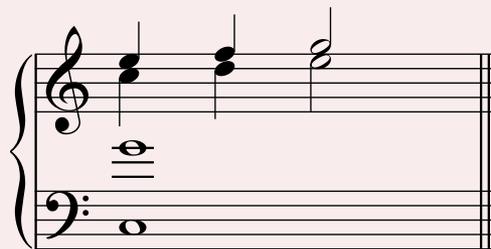


例②: 内声だけでハモらせた例

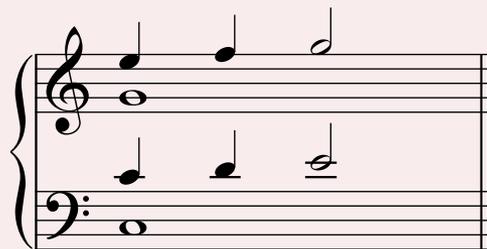


様々なハモリの組み合わせ

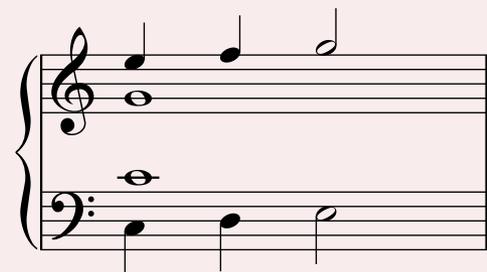
① ソプラノ+アルト



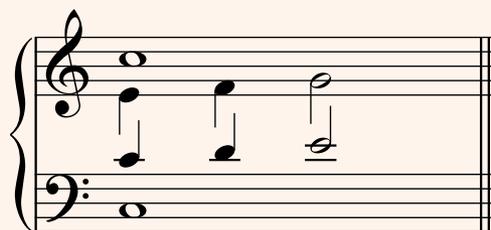
② ソプラノ+テナー



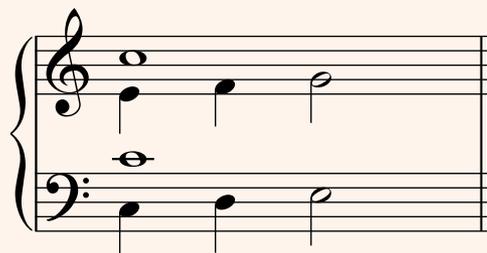
③ ソプラノ+バス



④ アルト+テナー



⑤ アルト+バス

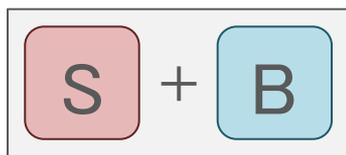
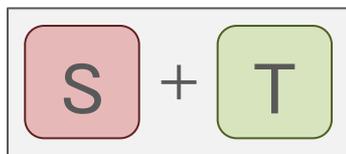
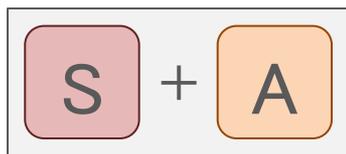


⑥ テナー+バス

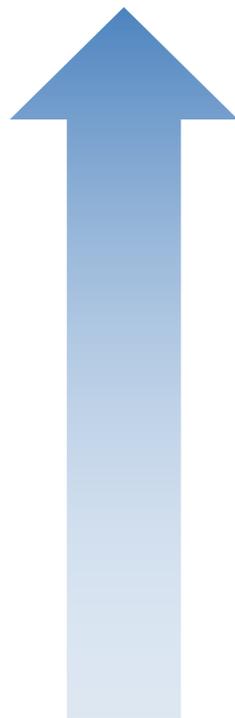


ハモるパートと聞こえ方の関係

ソプラノ主体

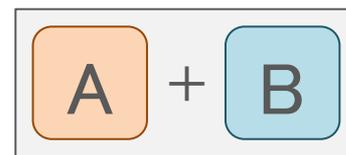
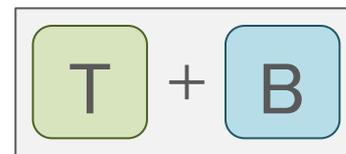
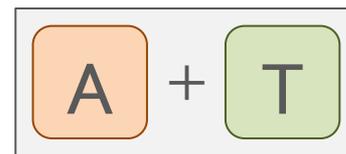


単旋律的
(一体感)



複旋律的
(独立感)

内声主体

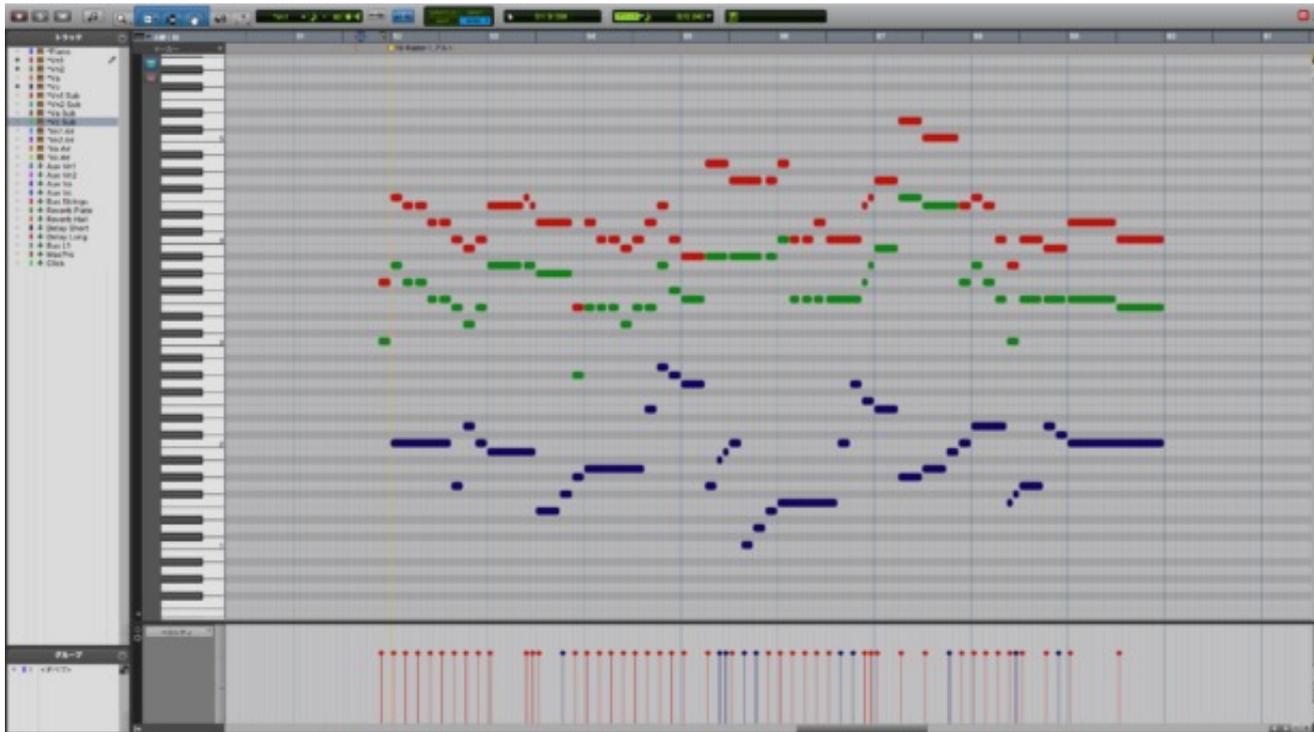


内声のアレンジ手順

- ① ソプラノのハモリを作る要領で2nd Violinを配置
- ② さらにViolaを配置
- ③ 和声的に不都合がないか確認(あれば修正)
- ④ ソプラノ以外とのハモリを意識して内声に動きを出す

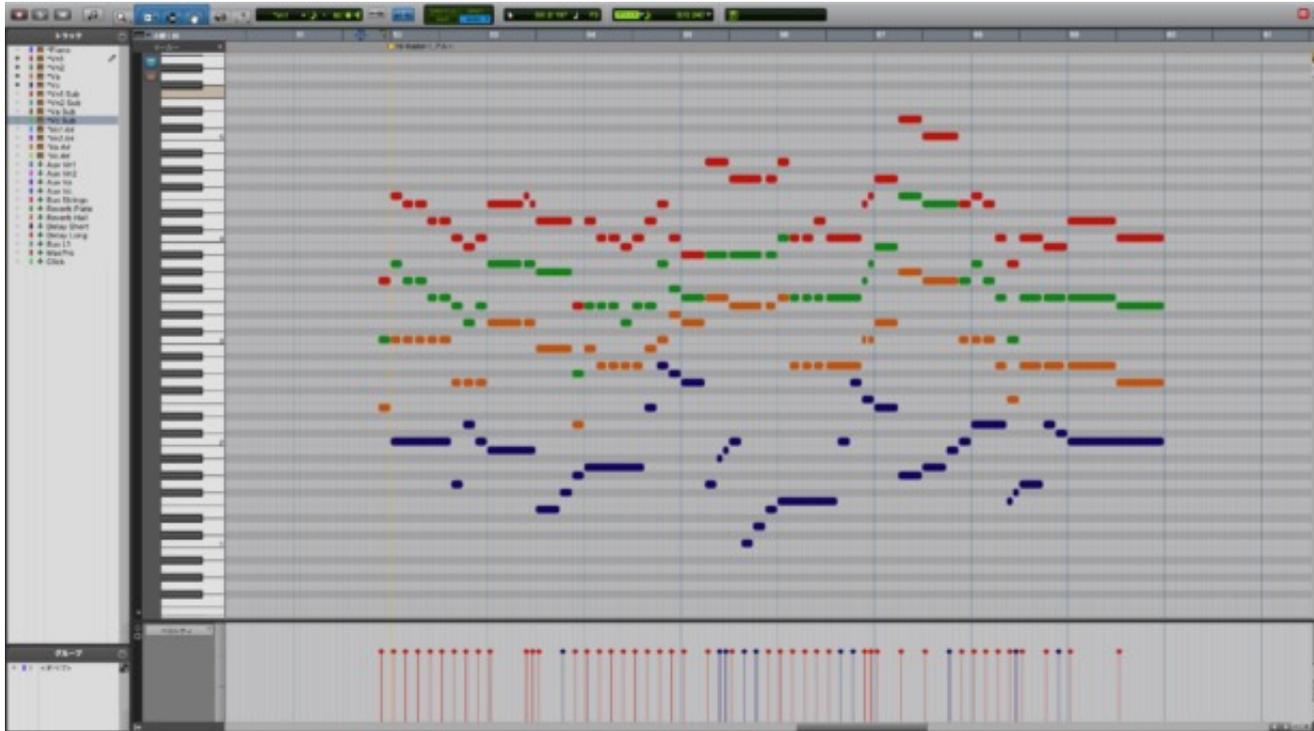
① ソプラノのハモリを作る要領で2nd Violinを配置

1st Violinのハモリパートを作る感覚で2nd Violinを配置。このとき、1stの3度下付近でハモれば密集配置に、6度下付近でハモれば開離配置になる。(のちに内声を動かすことを考えるならば、6度下付近がおすすめ。)



② さらにViolaを配置

足りないコードトーンをViolaで補完するように配置。このとき、ブロックコード型の要領でメロディの音符1つ1つに和音をあてがうイメージで配置するとやりやすい。

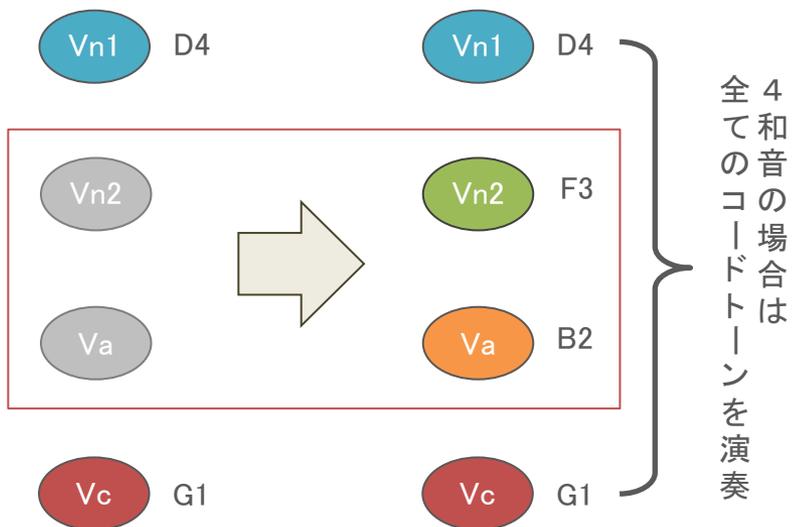


③ 和声的に不都合がないか確認(あれば修正)

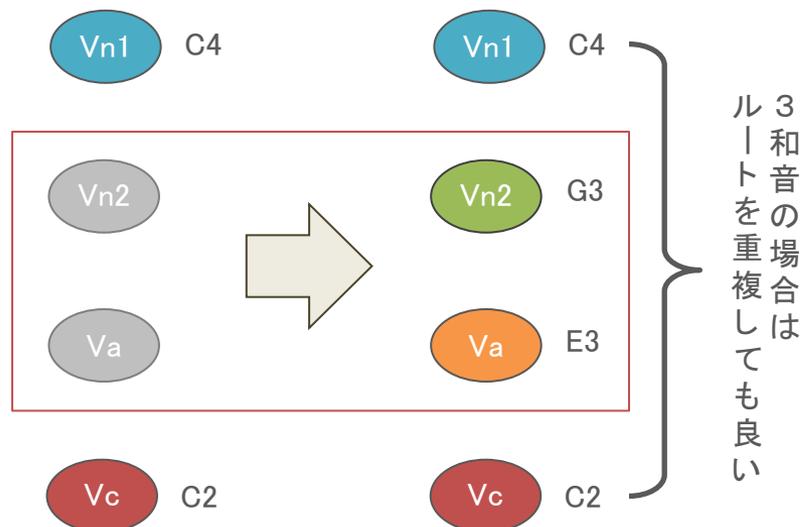
- ① 和音を形成しているすべての箇所でコードトーンを賄えているか？
- ② 三和音の場合、ルート以外の音が重複してしまっていないか？
- ③ 上三声同士のインターバルが、1オクターヴを超えていないか？
- ④ 限定進行音を守れているか？
- ⑤ 禁則は発生していないか？

原則としてコードトーンは全て鳴らそう

例1: G7のコードを開離で配置

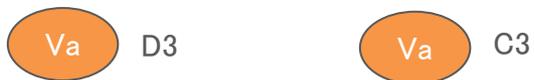
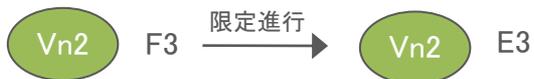
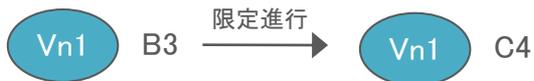


例2: Cのコードを密集で配置



省略しても良い音

① 限定進行の場合は
5度を省略



② 5和音以上の場合も
基本は5度を省略



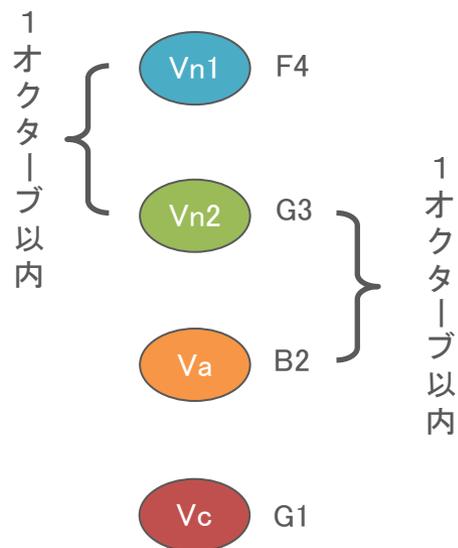
③ ベースがルート以外の5和音は
ルートを省略しても良い



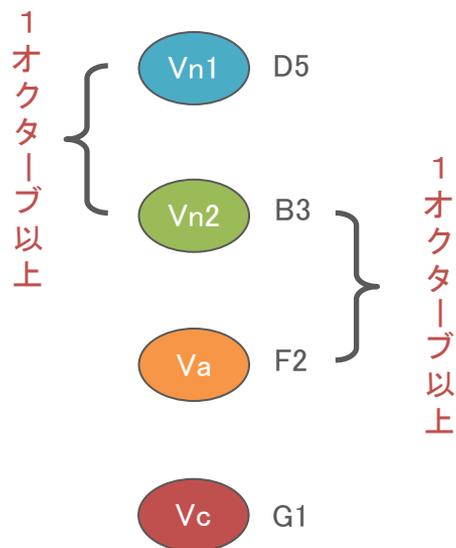
上三声における各声部のインターバル

隣合う声部同士は1オクターヴ以内に収まるよう配置しよう。

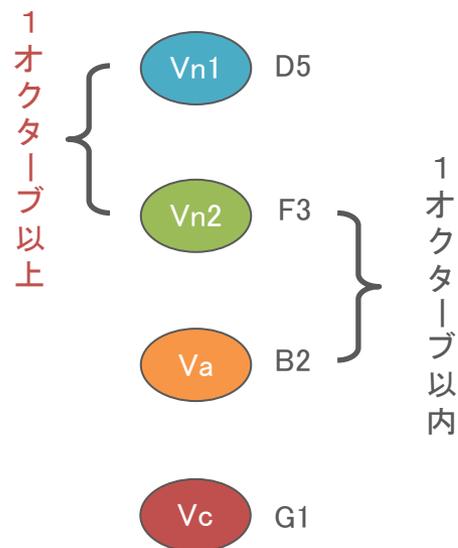
○ 正しい配置の例
(全て1オクターヴ以内)



× 間違った配置の例①
(どちらも1オクターヴ以上)



× 間違った配置の例②
(片方が1オクターヴ以上)



限定進行音について

1) 導音は2度上行する。

2度上行

V I

2) 第7音および第9音は2度下行する。

2度下行

V₇ I

2度下行

V₉ I

禁則その①：連続8度、連続5度

-禁則とは??

和声学において、2つの声部間に特定の音程関係が発生した場合、和音の響き(或は響きの流れ)を損ねるという理由で禁止されている行為。

原則として遵守すべきものだが、現代の音楽においては、使用できる和音の種類やテンションノートの関係で例外が多く存在するため、**避けられる場合は極力避ける**という認識で考えておけば良い。

1)連続8度

2つの声部間で**完全8度**が連続すること。

(前後どちらかの和音が複音程の場合も同様。)



2)連続5度

2つの声部間で**完全5度**が連続すること、又は**減5度→完全5度**の進行が生じること。

(前後どちらかの和音が複音程の場合も同様。後続の和音が減5度の場合は問題ない。)



禁則その②：並達8度、並達5度の禁止

2声部が並行する時に、後続の和音に完全8度、完全5度が形成されることをそれぞれ並達8度、並達5度と呼び、これらが**外声間に生じた場合にのみ**、以下のルールが適用される。

1) ソプラノが**順次進行**する場合はOK！

完8度

完5度

順次進行

順次進行

2) ソプラノが**跳躍進行**する場合はNG！

完8度

完5度

跳躍進行

跳躍進行

[ここがポイント！]

並達〇度の禁則は、ソプラノとバスの間でのみ発生するルールなので、バスを書く時点でしっかりと気をつけていれば容易に避けることができる。

ソプラノに対してバスを極力反行させておくことで、ほとんど抵触する心配がなくなるのでオススメ。

④ ソプラノ以外とのハモリを意識して内声に動きを出す

内声をソプラノ以外にハモらせていくと、自ずと独立した旋律が生まれていく。バスとのハモリ、内声同士のハモリを満遍なくちりばめていくのがコツ。

The image shows a screenshot of a music production software interface, likely Ableton Live, displaying a piano roll. The piano roll is annotated with several text labels and arrows pointing to specific harmonic relationships between different instruments:

- 1st&2ndでハモリ (1st & 2nd with harmony)
- 1st&Va.でハモリ (1st & Viola with harmony)
- 2nd.&Va.でハモリ (2nd & Viola with harmony)
- 2nd&Vc.でハモリ (2nd & Violoncello with harmony)
- Va.&Vc.でハモリ (Viola & Violoncello with harmony)

The piano roll shows multiple tracks for different instruments, with notes and stems colored in red, green, blue, and orange. The annotations highlight specific moments where these instruments play together in harmony, creating a rich, layered sound.